

「障害者施設での感染症対策研修」

# 感染性胃腸炎と 嘔吐物処理の基本



2025年11月13日（木）  
社会医療法人河北医療財団河北総合病院  
安全・感染管理部 感染管理科  
小林理絵

本日のゴール

現場で **正しく・安全に**

対応できるための知識の習得

(基本を理解することが大切です)



# 本日の内容

1. なぜ、障害者施設において、感染性胃腸炎対策が大切なのか
2. 感染性胃腸炎とは
3. 嘔吐物の処理
4. まとめ



# 1. なぜ、障害者施設において 感染性胃腸炎対策が大切なのか？



# 1) 感染が広がりやすい環境

## 【利用者の特性によるリスク】

- ・嘔吐・下痢などの症状を訴えにくい
- ・手洗い・トイレなどの自立度が低く、介助が多い
- ・嘔吐が突如として起こりやすく、処理が遅れやすい
- ・持病や脱水で重症化しやすい

## 【環境要因】

- ・食堂・トイレ・浴室などの共有が多い
- ・同じ職員が複数の利用者を介助する
- ・消毒や清掃の方法が人によって違う



## 2) 職員と施設全体への影響

### 【職員への影響】

- ・嘔吐物処理や介助中に感染することがある
- ・職員が休むとケア体制が崩れる

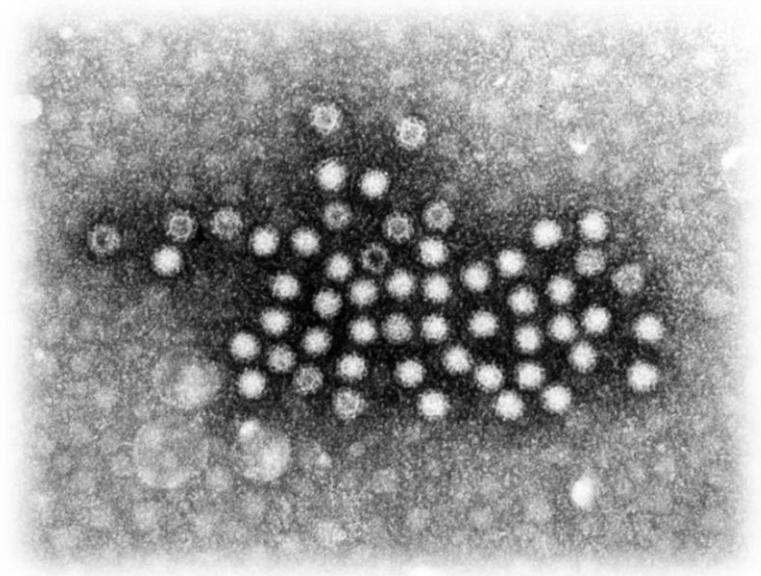
### 【施設への影響】

- ・集団発生に伴う業務縮小、新規受け入れの停止
- ・利用者・家族からの信頼への影響
- ・保健所への報告・対応に追われる

一人の感染が、施設全体の運営に大きく影響する



## 2. 感染性胃腸炎とは



## 1) 主な原因

細菌・ノロウイルス（一番多い）・ロタウイルスなど

## 2) 特徴

- ・ 感染力が非常に強い  
⇒10～100個程度のウイルス粒子の摂取により胃腸炎を起こす
- ・ 再感染が起こりえる
- ・ ノロウイルスは年中見られるが、特に冬季に多く発生する
- ・ 第四級アンモニウム塩、アルコールなどの消毒薬が効きにくい

### 3) 潜伏期間

※ある病気に感染した後、最初の症状が現れるまでの期間

- 12～48時間と短い
- 典型的な症状：下痢、嘔吐、腹痛、微熱、倦怠感
- 発症後1～2日で自然に回復

※ノロウイルスは症状消失後も長期にわたり便中に排泄され、乾燥した環境で1か月近く生存が可能

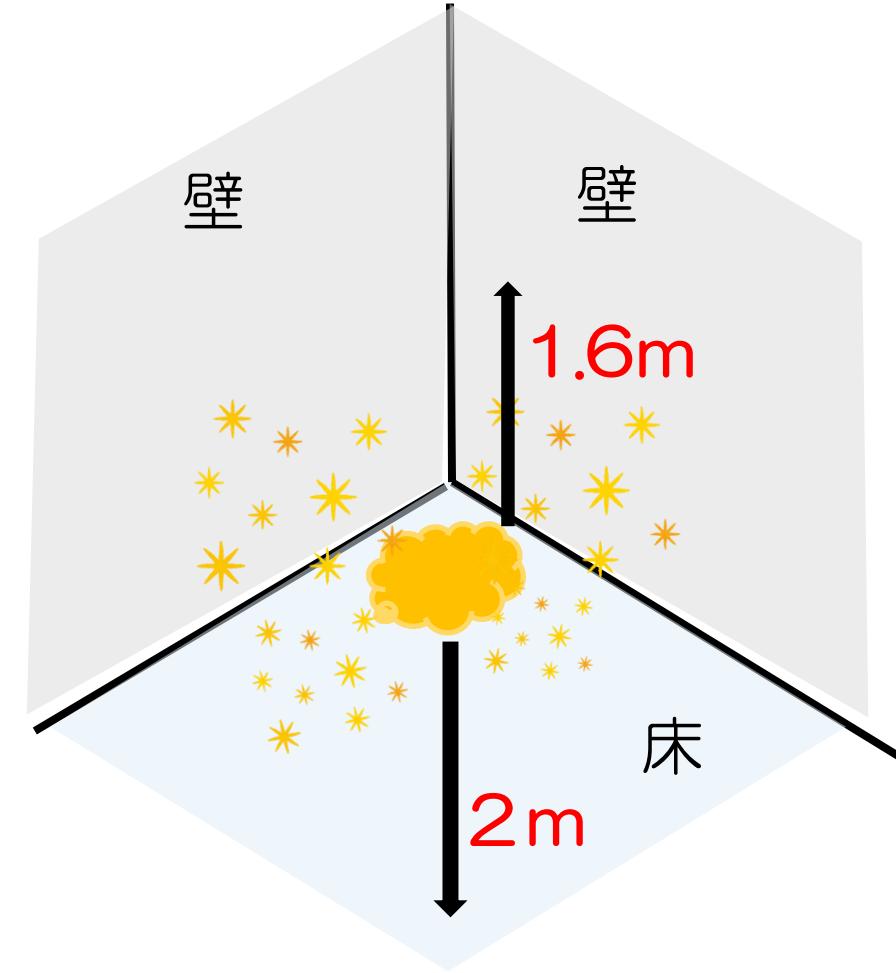
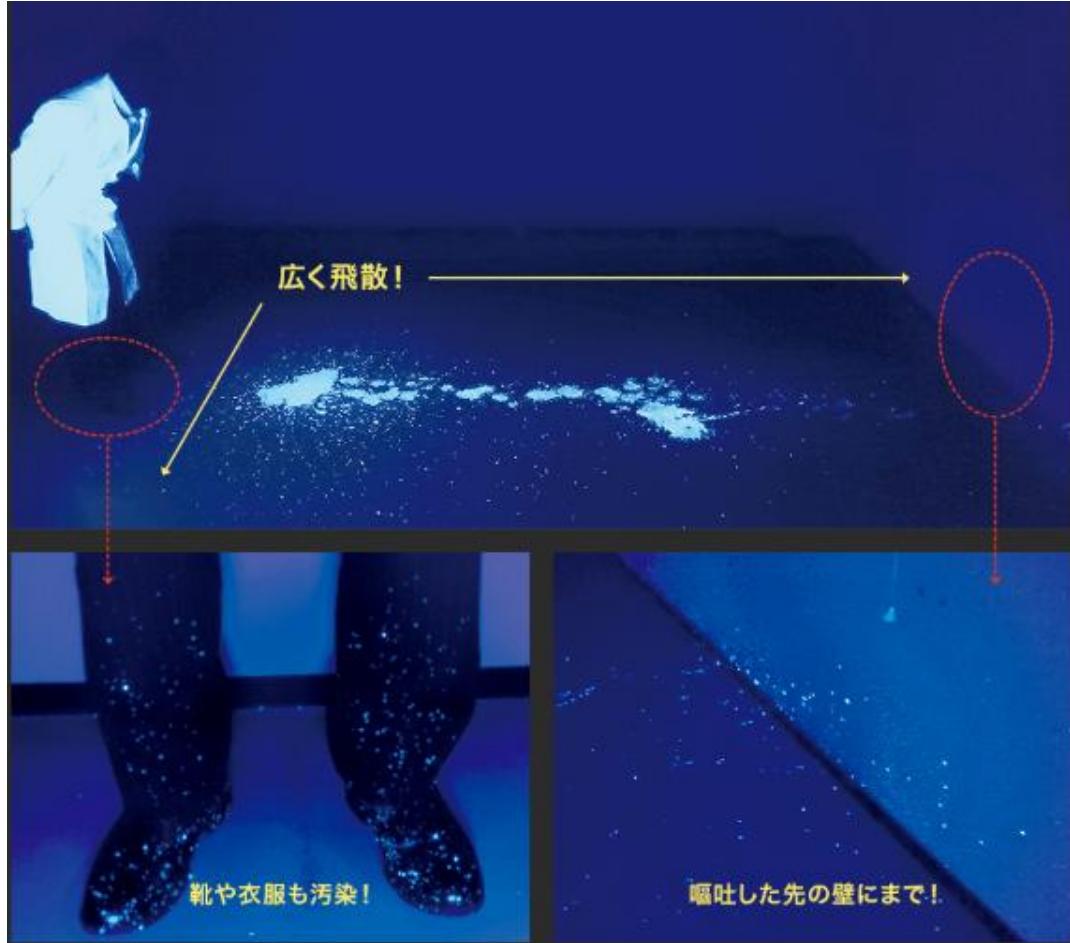
## 4) 感染経路

- ・ 主要なのは接触感染、ほかに飛沫感染、経口感染
- ① ウィルスで汚染された手との直接接觸
  - ② ウィルスで汚染されたモノや環境表面との直接接觸
  - ③ 飛び散った吐物や便に含まれるウィルスを吸い込んで攝取
  - ④ 調理者がウィルスで汚染された手で取り扱った食品の攝取

など・・・



# 嘔吐時の吐しゃ物の広がりのイメージ



### 3. 嘔吐物の処理



# 1) 発生時の初動対応

## ① 応援を呼ぶ

\* 単独での対応は、感染拡大のリスク

\* あらかじめ役割を決めておく

- ・ 吐物処理をする人 = 物品を持ってくる人
- ・ 吐物処理をサポートする人
- ・ 嘔吐した利用者のケアをする人
- ・ 他の利用者対応をする人（近寄らせない）



# 1) 発生時の初動対応

## ② 窓を開ける

\* 利用者の安全の確保

- ・ 窓の開放によって予測される危険

### 【窓を開ける目的】

空気中に浮遊するウイルスと  
次亜塩素酸ナトリウムによる刺激臭を  
外に出す



### 【窓を開けておく目安】

嘔吐物処理をはじめてから  
処置が終わって しばらく の間 (10分～15分程度)



## 2) 物品の準備



- ・あらかじめ物品をセット化し、各フロア・各階に置いておく
- ・物品をバケツに入れる、嘔吐物を処理する人用、サポートする人用にわけておくと、いざという時に取り出しやすい

画像：杉並区感染性胃腸炎予防・啓発リーフレットより引用

### 3) 次亜塩素酸ナトリウムの準備

市販の原液濃度約5%の薬液を使用した場合

約0.1%

(嘔吐物の消毒)



約0.02%

(ドアノブ・手すり・床など)



# 注意点

- ・ 希釀した次亜塩素酸ナトリウムは、その日のうちに使い切る ようにする
- ・ 消毒薬は時間が経過すると、消毒効果が低下してしまう
- ・ 作成した消毒薬の容器（ペットボトル）には、飲み物と間違えないように、薬品名作成日時を記載したり、危険であることがわかるような表示をしておく
- ・ バケツなどに3Lなど作る場合は、バケツにマーキングしておくと慌てずに作れて良い



# 4) 個人防護具を着る

着け方の順序：ガウン⇒（マスク）⇒アイガード⇒手袋

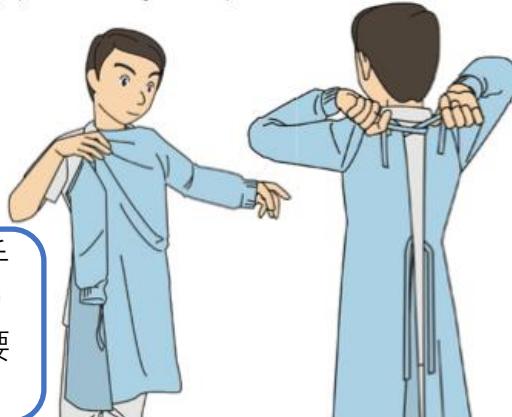
ポイント

1

ガウン・エプロン



ひざから首、腕から手首、背部までしっかりとガウンで覆い、首と腰の紐を結ぶ



2

サージカルマスク・N95マスク

●サージカルマスク

①



鼻あて部が上になるよう  
につけます。

②



鼻あて部を小鼻にフィットさせ、プリーツをひろげます。

③



鼻あて部を小鼻にフィットさせます。はなは全体を覆うようにします。

④



マスクのプリーツを伸ばして、口と鼻をしっかりと覆います。

⑤



装着完了。

3

ゴーグル・フェイスシールド

顔・眼をしっかりと覆うよう装着する。

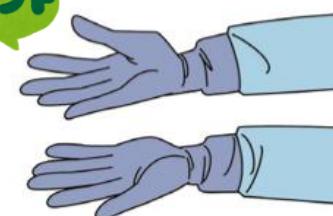
●ゴーグル



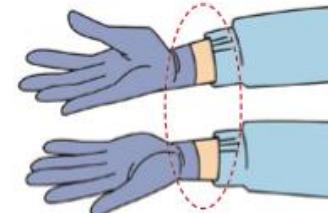
4

手袋

ポイント



手首が露出しないように  
ガウンの袖口まで覆う



手首が露出している



# 5 ) 嘔吐物の処理の実際

## ④ おう吐物の処理（集めて捨てる）

処理をする人の近くに

必要な物を準備しておきましょう。



ウイルスの飛散を防ぐため、  
すみやかにペーパータオルで  
おう吐物を外側から覆い、  
消毒薬をかけます。

おう吐物は2メートル以上  
飛び散るため、見える範囲より  
も広くペーパータオルで  
覆いましょう。



おう吐物を外側から中心に  
こすらず、すくい取ります。  
すくい取つたらすぐに  
ビニール袋に入れます。



※この時、サポートの人が、処理をする人の近くに  
ビニール袋を広げておくなどするとよい

# 5) 嘔吐物の処理の実際

## ⑤ 床面の消毒

おう吐物が完全になくなっていることを確認しましょう。

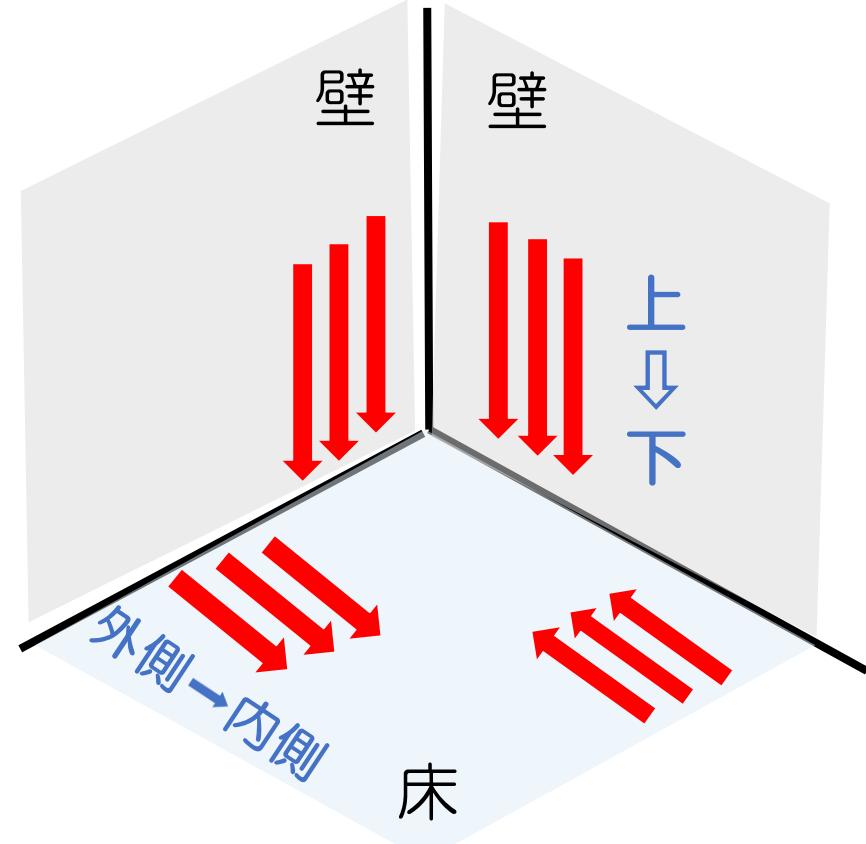


ペーパータオルを広く敷き、消毒薬をかけます。  
10分置いておきます。



10分後、ペーパータオルをビニール袋に入れます。

金属など、  
材質によっては腐食するため、  
最後に水拭きします。

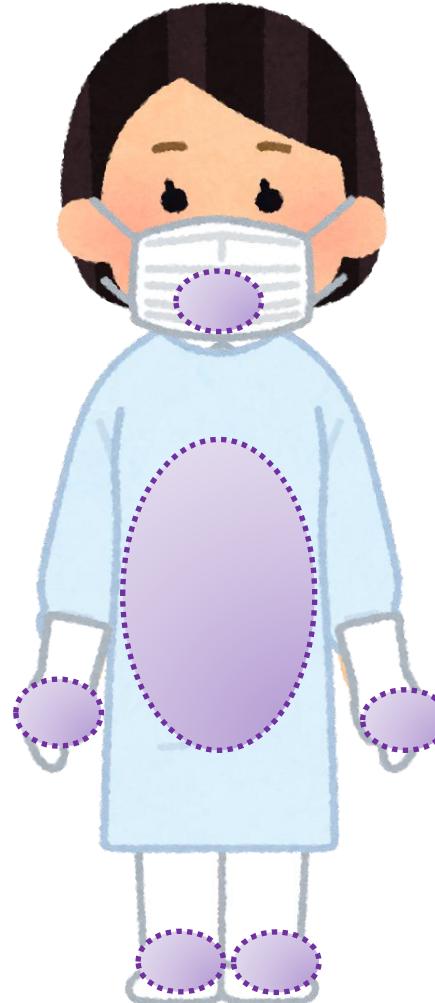


画像：杉並区感染性胃腸炎予防・啓発リーフレットより引用

# 6) 個人防護具を脱ぐ

○ = 汚染物が付着しやすい箇所

脱ぎ方の順序：手袋⇒アイガード⇒ガウン⇒マスク



ポイント

1 手袋



手袋は一番汚染されている！

- ①外側をつまんで片側の手袋を**中表**にして外す
- ②手袋をしている反対側の手で外した**手袋を握る**ように持つ
- ③手袋を脱いだ手の指先を、もう一方の手首と手袋の間に滑り込ませる
- ④そのまま引き上げるように脱ぐ
- ⑤手袋がひとかたまりとなった状態で廃棄する



社会医療法人 河北医療財団

# 6) 個人防護具を脱ぐ

ポイント



2

## ゴーグル・ フェイスシールド

外側表面は汚染しているため、ゴムひもやフレーム部分をつまんで外し、そのまま廃棄、もしくは所定の場所に置く。



●ゴーグル

3

## ガウン・エプロン

●ガウン

ひもを外し、ガウンの外側には触れないようにして首や肩の内側から手を入れ、中表にして脱ぐ。小さく丸めて廃棄する。

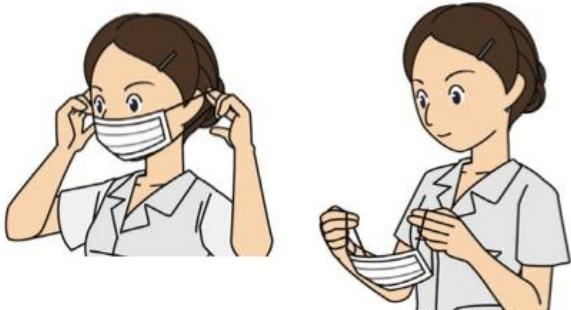


4

## サージカルマスク・N95 マスク

●サージカルマスク・N95 マスク

ゴムやひもをつまんで外し、マスクの表面には触れずに廃棄する。



ポイント



## 7) 廃棄物の処理



**ビニール袋に消毒薬を入れます**

ポイント

満遍なく、消毒薬をかけること  
使用したペットボトルも汚染されている可能性  
があるので、そのまま廃棄する



**ビニール袋の口を縛ります**

ポイント

ビニール内のウイルスを吸い込まないように、  
空気を抜かないようにしてビニールの口を縛る

# 嘔吐物の処理について

**Q：椅子や机の上などにも嘔吐物が飛び散っている可能性があったらどうすればいい？**

⇒ペーパータオルや使い古しのタオルなどを広げ、次亜塩素酸ナトリウムをかけ、10分以上放置しましょう。

**Q：送迎の車内で吐いてしまったら？**

⇒シートが布製であっても、同じ手順を推奨します。

車内に処理セットを置いておくことも良いでしょう。

走行中であれば、施設到着後に対応を開始するなどルールを決めておく。

飛び散ったり、  
舞い上がったウイルスを  
吸い込まないように！



# その他の対応

## 【職員】

- ・ 対応をした職員は、最終接触後から48時間（潜伏期間）は消化器症状の出現に注意をする
- ・ ノロウイルスに感染（感染性胃腸炎）と診断された場合は、無理に出勤はせず、下痢・嘔吐がなくなって約48時間程度経過してから出勤を検討する
- ・ 冬などの流行期に、家庭内に胃腸炎症状の人がいた場合は、無理に出勤はせずに勤務変更を申し出る

**※出勤後も、手指消毒・手洗いを徹底して感染予防を行う**



# その他の対応

## 【利用者・家族】

- ・ 冬などの流行期、消化器症状がある場合は、無理に通所させず自宅で様子を見てもらえるように家族に協力を依頼する  
(家庭内に感染した家族がいた場合も同じ)
- ・ 嘔吐した利用者の近くにいた他の利用者は、最終接触後から48時間（潜伏期間）は消化器症状の出現に注意する  
⇒家族への情報共有、協力も大切



# その他の対応

## 【利用者・家族】

- ・ 感染した利用者は、嘔吐や下痢が消失し、症状の再出現がないことを確認してから、施設の利用再開を検討（48時間程度）

⇒但し、症状がなくなっても1ヶ月程度は糞便にウイルスが排泄されるため、排泄後のトイレの清掃、利用者の石鹼による手洗いは続けましょう



# まとめ

- ・ 障害者施設における感染対策は、その特徴からとても複雑だからこそ、基本を理解することが大切
- ・ その施設の利用者の特性、通所人数、職員の数、構造などそれに合った対策（ルール）を決めておくこと
- ・ いつでも対応できるように、訓練をしておく



ご清聴ありがとうございました



社会医療法人 河北医療財団